

7月15日 ありんこ

小学校3年生のときだったか。担任は優しい女性の先生だった。勉強が苦手な私にも丁寧に教えてくれる、私にとっては“わりと好き”な先生だった。

理科のテストでのこと。わからない問題ばかりで途方に暮れていた。中に、虫に関する問題があった。これはわかる。間違いない。公園にいっぱいいるあの虫だ。解答欄に、はみ出るくらい大きな字で「ありんこ」と書いた。

答案が返ってきたときに私は愕然とした。「ありんこ」の上に大きな赤い×が乗っかっているのではないか。これだけは自信があったのに、先生はなぜ×にしたのだろう。答え合わせで先生が言った。「答えはあります。『ありんこ』って書いている人がいましたが、正式にはありと言います」

衝撃だった。「ありんこ」は遊び友達の間で用いられている、あの虫の「正式」な名前だったから。私の中では「あり」も「ありんこ」も同じ。答えは合っているのに、どうして×がつけられたのか納得がいかなかった。

教師になってからこんな話を聞いた。雪深い地方の、ある小学校でのこと。「雪が溶けたら何になるでしょう」という問いに、当然ながらほとんどの生徒は「水」と答えた。そんな中「春になる」と答えた生徒がいた。先生は×をつけたという……。この話は新聞でも取り上げられ、ネットには未だに賛否の意見が上がっている。

私はこの先生の判断は正しいと思う。しかし、大切なのは、機械的に×をつけたのか、それともそこに葛藤があったのか、そして、その子どもに納得のいく説明ができたのか、ということだ。

「ありんこ」で傷ついた私なら、きっと花丸をつけただろう。誰に何を言われようが。

